

事業報告書

事業名 「森林所有者・地域住民・事業者・若者を結ぶ
勉強会の実施事業」



- 1 実施団体 NPO法人青梅林業研究グループ
- 2 担当課 農林課
- 3 実施時期 平成28年6月4日～平成29年2月28日
- 4 参加者 森林所有者・地域住民・事業者・若者
- 5 実施場所 青梅市役所
(3階議会棟大会議室・2階204～206会議室)
- 6 事業の目的 市内63%の森林資源の持続的利用と放置林の活用
- 7 役割分担
 - ・団体の役割 講師手配、森林所有者・地域住民・若者への働きかけ
 - ・担当課の役割 情報提供、活動の場の提供（屋内外含む）、広報はじめ、森林所有者・地域住民・事業者・若者への働きかけ

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

市内森林において、放置林が減少し、林業就業者の増加、またそれに伴う地場産業への波及を期待

9 目標達成

事業の目標： ①青梅市内に若手林業就業希望者が3名集まる
②放置山林を提供してくれる森林所有者が3名集まる
③林業就業のためのフィールド確保

目標の達成具合：①若手林業就業希望者は、3名以上集まる
②山林をを提供してくれる森林所有者が2名集まる
③林業就業のためのフィールド確保については、
提供予定森林所有者と調整中。

10 事業の実施内容

- 6/8以降より農林課と青梅りんけんが中心となって、事業実施に向け検討会や中心人物の洗い出し。
- 本事業に先立ち、事前の6/27青梅市内の森林所有者、地域住民、事業者、若者の有識者を交えた、35人規模の勉強会を講師招き実施。
- 10/30本事業である、勉強会を『自伐型林業フォーラム in 青梅』と題して、青梅市内外の森林所有者、地域住民、事業者、若者を中心に100名を募集。講師、スタッフ含め総勢130名以上の参加者を迎え、パネルトーク質疑応答の時間では、市長はじめ多くの前向きで活発な意見が伺えた。
- 10/30以降11/29、12/4、12/27、1/13、2/9、2/26と『自伐型林業フォーラム in 青梅』に参加された方の中で、青梅市内の意欲ある市民中心で定期的に集まり、林業就業に結び付けられるフィールドの確保に向け、意見交換を継続している。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	3	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- 青梅市内住民より、市外住民の方からの林業体験等、実践できる山林に関心を強く持たれている。一方で、青梅市内の森林所有者側への理解をもう少し深め進める必要もあると感じる。
- 区域外住民や若者、これから始めたい人に対する森林・林業に対する心構えや技術習得の場の提供と、森林所有者や地域住民に対しての信頼性の構築が必要不可欠と感じる。

13 その他

事業実施をした上で気付いた課題解決のためにも会議室で考えるのではなく、実践できる現場を確保し、間伐や作業道づくりなど、木材の搬出研修を体験しながら、地域産材を使う仕組みが構築できたら、理解者が増え早期解決が図れるのではないかと考える。

経済的にも利便的にも実行しやすい場所、市街地に近い市有林（青梅市森林面積の約 2%）などでモデルが出来れば、全体の多くを占める私有林（青梅市森林面積の約 97%）への波及効果も必ず期待できると感じる。

青梅市は、東京の森の玄関のような立地条件であるため、もっと活かすことを念頭に、市有林のみならず、本事業を通し、繋がった参加者の所有される私有林での展開も視野に入れ今後も地道に活動を継続していく。